

成功へのキセキ 南の国の「ナンセンス」税理士

第56回 しつけのための体罰は必要か？

小学校3年生の女の子が、父親から虐待を受けて、亡くなりました。あまりの痛ましさに、しばらくはニュースを見たり、読んだりすることができませんでした。

驚愕したのは、死んでしまうまで女の子に暴力をふるったのが、実の父親だったということです。義理の父親による暴行事件や、母親の新しい恋人から暴力を振るわれて…という話は、ときどきニュースを騒がせますが、いや、だからと言って、子どもへのDVやネグレクトが許されるわけではないのですが…。

実の子どもが衰弱しきって、死ぬまで暴行し続けたというのは、理解の範ちゅうを超えたショッキングな事件でした。

この事件の衝撃的な点は他にもあります。DVに気づいていた大人が周りにたくさんいたのに、誰も女の子に救いの手を差し伸べなかったことです。

小学校の先生は、アンケート用紙に書かれた女の子からの切実なSOSを受け取っていました。ある意味、もっとも近くにいて女の子の顔の表情や日々の変化を、キャッチしてあげることができたはずなのに、長期に欠席しているという本来なら察知できるはずの異常事態になっても、家庭訪問すらしていませんでした。

女の子のアンケート用紙を、加害者である父親に渡したという野田市の教育委員会。父親の威圧的な態度に屈してしまったということですが、このアンケートを父親が見たことで、暴力がエスカレートしたのではないかと推察されることを考えると、腹がたって仕方ありません。アンケートには「ひみつはまもらすので、しょうじきにこたえてください」と書かれていたとのこと。

けれど…。勇気をだして訴えた女の子の秘密は守られませんでした。大人に裏切られたと知ったときの、心愛ちゃんの絶望を思うと、胸が痛くなります。

一時保護をした児童相談所も、父親の圧力に負けて、心愛ちゃんを親族の元に返しています。そして父親は親族宅から、心愛ちゃんを無理矢理自宅に連れ帰るのです。泣き叫んで嫌がったという心愛ちゃんを児童相談所も親族も、守ってはくれませんでした。

逃げても、逃げても、逃げてもゾンビのように追ってくる父親。まるで、アメリカのホラー映画のようです。追われるのは、スク

リーンの中の役者さんではありません。この日本に実在する、たった10歳の女の子です。

近所の大人も、毎日のように女の子のギャーと泣き叫ぶ声や、「殺してやる」など父親の怒鳴り声を聞いていたそうです。けれど、誰ひとり、10歳の女の子に救いの手をさしのべる大人はいませんでした。誰ひとり…。母親でさえ…。

世界で唯一の味方であるはずの母親でさえ…。

そして、心愛ちゃんは、恐怖と絶望の中で亡くなってしまいます。父親の逮捕容疑は、「暴行」および「傷害致死」です。え!? 殺人罪ではないの？

1989年、有名な女子高生コンクリート詰め殺人事件というおぞましい事件がありました。不良グループが通りがりの女子高生を40日間にわたって監禁し、暴行し、死亡させた事件です。被害者にとっての理不尽さや、最後には生命までうばったという点で、似通ったものを感じるのですが、なぜ今回の事件は、殺人罪でないのでしょうか？

逮捕された父親が、「あれは、しつけだった」と言っているからでしょうか？単なる「しつけ」だったと。だから自分は、悪くないとでも言いたいのでしょうか…。しつけなら、殴っても、殺しても、親は悪くないとでも言うのでしょうか。

先日、テレビ朝日の番組で、「しつけのための体罰は必要か？」という特集をやっていました。テレビが独自のアンケートを放送していたのですが、その内容は衝撃的なものでした。体罰を容認している人が、56.8%もいるのです。

Q. しつけのための体罰は必要か？

- A1. 積極的にすべき 1.2%
- A2. 必要に応じてすべき 16.3%
- A3. 他に手段がないと思ったときのみすべき 39.3%
- A4. 決してすべきでない 43.3%

いま会社では、仕事上のやり取りでも、部下の人格を傷つけるのは言葉の暴力だといわれるぐらい日本中がパワハラに敏感になっています。選手に平手打ちをしたなどの理由

◆筆者 原 尚美（はら なおみ）プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練（現：全国公開模試）「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』（いずれもソーテック社）、『51の質問に答えるだけでできる「事業計画書」のつくり方（日本実業出版社）』『トコトンわかる株式会社のつくり方（新星出版社）』『世界一ラクにできる確定申告（技術評論社）』『一生食っていくための土業の営業術（中経出版）』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

で登録を抹消された体操コーチもありました。しかし、家庭内のことになると、日本人の半数以上が「暴力」はOK!と考えているなんて…！

でも…

それは、おかしい!と、心から思います。

暴力では、子どもは親の言うことは聞きません。

親の思いどおりにも、なりません。

親の望みどおりの子どもにも、育ちません。

子どもを自分の思いどおりにしたければ、方法はただ一つ。親が率先して、態度でその模範を見せることです。そして、わかりやすい言葉で繰り返し親の思いを伝えることです。

なぜ、そんな風に断言できるかというと、私自身が子ども時代、親から抑圧されて育ったからです。

物心ついたときから、母は私に絶対服従を強いました。私をプロのピアニストにしたいと言うのが、彼女の夢だったからです。ピアニストになりたかったのは、私ではなく母でした。

私は3歳からピアノを習い始めました。当時、地元で最高レベルだった先生のところに毎週、個人レッスンに通い、家庭教師として別の先生が、週に3日、自宅にピアノを教えにきてくれていました。学校から帰っても友だちの家に遊びに行けない。遊ば一、と誘いに来てくれる友だちは、ことごとく母が追いつ返してしまいました。

突き指をするからという理由で、体育の時間でさえ、大好きだったバレーボールやドッジボールは禁止されました。

毎日、6時間のお稽古。私はいつも、泣きながらピアノを弾

いていました。ピアノなんて嫌だと泣きじゃくって抗議すると、ごめんなさいと謝るまで、何時間でも真っ暗な納戸や納屋に閉じ込められました。殴られた記憶はありませんが、言葉の暴力はたくさん受けました。ダメな子。可愛げのない子。ちっとも可愛いと思えない。どうして親のいうことが聞けないの。親の言う通りにしなさい。

私はピアノが大嫌いになりました。ピアノの先生も嫌いでした。母親のことも、好きにはなれませんでした。

だから、体罰は必要だと思っている親たちに言いたい。その考えは間違っていると。今なら分かります。母は、私を愛していました。けれど、暴力で愛情が伝わることはないのです。

そして、いま親の暴力に怯えて暮らしているたくさんの小さな生命が、一日も早く救われることを、心から祈るばかりです。



カンボジアの孤児院で暮らす子ども。世界中の子どもたちが、幸せになれますように。

おかげさまで
20刷!

最新 小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本

原 尚美 著、吉田 秀子 著（ソーテック社） 1,400円+税

総務・経理の仕事…すべてをできるようになるには、とても時間がかかります。大きな会社に入社しても、小さな会社に入社しても、たくさんのことを覚えなくてはなりません。そんなとき一番困るのが、必要書類がわからない、書類の書き方がわからないといったことです。本書は、必要な書類とその書類の書き方の注意点のサンプルをできる限り掲載しています。総務・経理のしごとに関わるすべての人に読んで、参考にして頂きたい本です。

